

R000
99
TV

JICA LIBRARY



1018615[3]

国際協力事業団	
受入 月日 04. 5. 23	R000
登録No. 07182	99 JV

携行常備用医薬品及び衛生用材一覧表

品名	包装・数量	薬効	用法用量	備考
(内用)				
ハイピリン	400mg 30錠入 1箱	解熱鎮痛	1回2~3錠/時	
パフエリン	48錠入 1箱	解熱鎮痛	1回2錠 1日2回	
アスピリン		解熱鎮痛	1回1錠 1日3回	
セデス		解熱鎮痛	1回2~3錠	
コントロール	5mg 50錠入 1箱	精神安定	1回1~2錠	要指示薬
バランス			1日2~3回	
ブスコパン	10mg 20錠入 1箱	鎮 痙	1回1~2錠 { 1回2錠 1日3~4回	
新ルゴールD	60錠入 2箱	総合感冒	1回3錠 1日3回	非ピリン系
プロエントラ	10mg 100錠入 1箱	抗ヒスタミン	1日1錠	かまぎに服用
新タケダ胃腸薬	60錠入 2箱	健胃消化	1回3錠 1日3回	かまぎに服用
新三共胃腸薬		健胃消化	1回3錠 1日3回	
ワカモト糖衣錠		健胃整腸	1回1~2錠 1日3回食後化	
キャベジンUコーワ		健胃整腸	1回3錠 1日3回食後化	
正露丸	500粒入 1箱	健胃整腸	1回3粒 1日3回	
ミヤリサンA	180錠入 1箱	整腸	1回1~2錠 1日3~4回	
強力ソルペン		快便	1回3錠 1日3回	
タチオン			1回1~2錠	
ソノミン	500mg 100錠入 1箱	サルファ剤	P. 21を見よ	要指示薬
総合ビタミン錠	1000錠入 1箱	栄養	1日1~2錠	
オラドール口錠	05mg 100錠入 1箱	口腔用	3~4時間ごと 1錠	口腔内で徐々 にとかす

品名	包装・数量	薬効	用法用量	備考
コンシトリン	100mg 20錠入 1箱	駆虫	体重1Kg当たり 10mgを1回服用	
ピペニ		駆虫	回虫には20錠 蟯虫には10錠	
フラシール内服錠		抗トリコモナス	1回250mg 1日2回 10日間	
M.P.錠	120錠入 1箱	抗マラリア	P. 5 を見よ	中南米・南太平洋を除く
〔外用〕				
ハイレンE	60g 3ヶ	中性薬用石けん	普通の石けんの ように	
オキシドール	100ml 1本	殺菌消毒	傷口に塗布	
希ヨーチン	100ml 1本	殺菌消毒	傷口に塗布	
アクリノールガーベ	35枚入 2箱	殺菌消毒		
フルコート軟膏	5g 3本		1日1～3回 塗布	副腎ホルモン 含有 抗生物質 副腎皮質
テラマイシン軟膏				
ベトネベート軟膏・クリーム		鎮痛・鎮痒		
レスタミンコーワ	25g 1本	収斂・消炎	1日数回塗布	ホルモン剤 抗ヒスタミン
軟膏				
オイラックス				
チョコラザーネ		引赤		
オロナイン軟膏				
メンタム				
キンカン	50ml 1本		患部に塗布	アンモニア 含有
アンモニア水				
エンベドクリーム	10g 1本		1日2～3回 患部に塗布	
セバリンT液		}寄生性皮膚 疾患	1日2回患部 に塗布	
セバリンT軟膏				

品名	包装・数量	薬効	用法用量	備考
ルブリテックス軟膏 坐剤		痔疾治療	1日1～数回 患部に塗擦	
レンカルボン坐剤		快便	1日1～2個 肛門に挿入	
フラジール錠		抗トリコモナス	1日1回1錠 を膈内に挿入 10～14日間	
新ロート目薬	15 ml 1本	点眼	1回2～3滴ずつ 1日5～8回点眼	
パテックス	10枚入 1箱	パップ剤	1日1回貼布	
トクホン	80枚入 1箱	パップ剤		
サロメチール				
新リベランクリーム	20g 1箱	防虫	露出部に塗布	

衛生用材

品名	規格	数量					
ばんそうこう布	1.2 m × 3 m	3					
バンドエイド							
包帯(伸縮性)	3.8 cm × 6.5 m	2					
“	6.2 cm × 4 m	3					
三角布		1					
脱脂綿	50 g	1					
カセ	30 cm × 1 m	2					
ピンセット		1					
はさみ		1					
毛板		1					
綿棒		1箱					
眼帯		1箱					
体温計		1本					
換算表							
摄氏(°C)	35°C	36°C	37°C	38°C	39°C	40°C	41°C
華氏(°F)	95°F	96.8°F	98.6°F	100.4°F	102.2°F	104°F	105.8°F

$$\text{華氏 } F = \frac{9}{5} C + 32 \quad \text{摄氏 } C = \frac{5}{9} (F - 32)$$

ま え が き

この小冊子は“病氣らしい”と気がついたとき、手帳にとって参考にしていたとくことができるように編集しました。巻末の索引で“症状”をさがし、“くすり”の最も適応したものを知る方法、症状別リストから同じく適応した“くすり”を知る方法があります。

習慣で使いなれた“くすり”であっても、もう一度その“くすり”についてよく読み、たしかめてから服用して下さい。“くすり”についての基礎知識の項は、ときどき読み返して頂きたいと思います。

現地での生活が充実したものであるように、日頃の健康管理に注意を払い、“病氣”は早目に休養をすることで克服いたしましょう。

“くすり”に頼ることのないよう、そして必要な時には適確な使用法を心がけて下さい。

目 次

1.	常備用医薬品の携行目的	1
2.	薬の基礎知識	1
3.	抗生物質	3
4.	抗マブリア剤 B P 錠	5
5.	常備用医薬品	7
5-1	内 用 薬	7
	解熱鎮痛薬	
	ハイピリン	7
	バッファリン	7
	アスピリン	8
	セアス	8
	精神神経用剤	
	バランス	10
	コントロール	10
	鎮 痛 剤	
	ブスコパン	11
	総合感冒薬	
	新ルルゴールDS	12
	抗ヒスタミン剤	
	プロエントラ	13
	健胃整腸剤	
	新タケダ胃腸薬	13
	新三共胃腸薬	14
	ワカ末糖衣錠	15
	キャベジンO コーワ	15
	正露丸	16
	ミヤリサン	16
	便秘治療剤	
	強力フォルベン	17
	酵素製剤	
	タチオン	17
	リルフェ剤	
	シノミン	18
	栄 養 剤	
	総合ビタミン錠	19
	口腔用剤	
	オラドール口中錠	19
	駆虫剤	
	ビベニン錠	20
	コンバントリン	21
	抗トリコモナス剤	
	フラジール内服錠	21

5・2 外用薬	23
殺菌消毒薬	ハイレンE 23
	オキンドール 23
	希ヨードン 24
	アクリノールガーゼ 24
	マキロン 25
鎮痛、鎮痒、収斂、消炎、引赤剤	
	フルコート軟膏 25
	テラマイソン軟膏 26
	ベトネベート軟膏 27
	レスタミンコーワ軟膏 28
	オイラックス 28
	チロコラザネ 29
	オロナイン軟膏 29
	メントム 29
	キンカン 30
	アンモニア水 30
寄生性皮膚疾患用剤	
	エンベシドクリーム 31
	セバリンT液 31
	セバリンT軟膏 32
痔疾治療剤	ルブリテックス軟膏・坐剤 32
便秘治療剤	レンカルボン坐剤 34
抗トリコモナス剤	フラジール錠 34
点眼剤	新ロート目薬 35
パップ剤	トクホン 36
	パテックス 36
	サロメチール 36
防虫剤	新リベランクリーム 36
5・3 症状別、薬品一覧表	37
皮膚の異常	37
かぜの諸症状	38
胃腸の病気	39
その他の症状	40
索引(薬品名、薬品分類名、症状、副作用)	41

1. 常備用医薬品の携行目的

常備用医薬品を携行する目的は、一般隊員が自医師にかかるまでの応急手当のためと、(2)解い病気(やけ)がの手当のためです。したがって、これらの常備用医薬品についての限界を充分知っている必要があり、以下にのべるようなときには、しろうと療法はさけ、必ず現地の医師の診断を受けるようにして下さい。又、不可能な場合には、医療従事者(看護師・薬剤師など)に相談するようにして下さい。

- (1) 熱が高いとき、とくにすこしでも意識がわかかされていると思われる場合。
- (2) 脈がひじょうに速いとき、また呼吸困難のあるとき。
- (3) 症状が単純でなく、たとえば下痢と発熱など、いろいろな症状がかさなっていたり、また症状がしだいに重く変化する場合

常備薬はあくまで一般的に誰れでも使用出来るものを選択してあります。正確な知識をもって使うように心がけて下さい。この他に、各個々人で服み慣れた家庭医薬品があれば用意していった方が賢明です。

2. 薬の基礎知識

体内に入った薬は、体にとって、ある意味で異物であり、なんらかの作用をもっています。したがって、その作用をうまく利用すれば、薬となり、使用方法を誤れば毒にもなります。携行常備用医薬品は、比較的安全なものですが、それでも、使用方法が正しくない場合は、危険を伴います。薬をまちがいに有効に使うため、使用前に、以下の諸点をよく理解し、守って下さい。

(1) 能書の内容をよく読む

薬に添付された能書に、成分、作用、適応症(効能)、用法用量(服用法)、使用上の注意、副作用等具体的に説明されているので、よく読み、指示を守って下さい。

(2) 薬の名前

薬は、同一成分のものでも会社によって違った商品名で売り出されていたり、成分名も、化学名、一般名等のように異った名前で記載されています。現地でも同じ効きめのある薬を購入したい場合は、その旨を知った上で、この小冊子の該当品目中の〔組成〕の欄を参照して下さい。

(3) 薬の剤型とそのみかた

薬は、その性質や作用を考慮して、糖衣錠、液剤、粉末、トローチ等のようにいろいろな剤型にしています。充分な効果を得るためには、それぞれの能書の用法用量の項に従って下さい。

(4) 用法用量の厳守

薬に添付されている能書をよく読んで、定められた用法用量、服用時間などを正しく守って使用する習慣をつけて下さい。薬の量をかかって増したり、他の薬と同時に服用したりすることは、非常に危険です。

(5) 薬の吸収と作用

内服した薬は、体のなかに入って吸収され、血液に入り、目的の場所で、ある濃度を保ちながら、作用をあらわします。そのため定められた用法用量、服用時間を守って下さい。この小冊子は、薬を作用で分類(薬効分類)して、記載してあります。

(6) 副作用

治療目的にかなった薬の作用以外にあらわれる、期待しない、好ましくない作用のことをいいます。程度の差はありますが、すべての薬にあらわれます。

(たとえば、アスピリン服用による胃障害)

薬を服用してその副作用ではないかと疑われる症状などがでた場合は、すぐにその薬の使用を中止して、現地の医師や医療従事者に相談して下さい。又、服用中、からだの具合が悪くなった場合、必ず薬の副作用であるかどうかを疑ってみる必要があります。

(7) 専門家の指示によらない薬の併用や乱用はさける。

薬は乱用によって、相加的に又は相乗的に作用が強くなりあらわれたり、副作用が強くなったり、弱くなったりします。また逆に、効果が減少したり、極端なときは無効になることさえあります。素人がかかって、何種類もの薬を併用しますと、思わぬ結果があらわれることもあり非常に危険です。

(8) 連用による注意すべき作用

① 薬物依存(習慣性と嗜癖)

同じ薬を繰り返して使用しているうちに、次第に量を増やさないと効果があらわれなくなるもの、薬がなくてはいられなくなったりすることがあります。

② 蓄積作用と抵抗性

連用しているうちに、それが体の中に次第にたまっていった中毒症状をおこすものがあります。抗生物質等化学療法剤を長期間連用した場合、病原体のほかにその薬に対する抵抗性(耐性)ができて、効き目が悪くなり、また効果がなくなることがあります。他にも同じ薬を長期連用していると、短期間の使用ではみられない副作用があらわれることもたびたびあります。

(9) 要指示医薬品(抗生物質剤、ホルモン剤、催眠剤、精神神経剤等)

特に医師の指示または処方せんによって使うことが定められている薬で、これらの薬に指定されたものは、効果が直接的で強いいため使用方法を誤れば非

常に危険です。医師の指示のもとに使用するようして下さい。

- (ii) 現地の医師の診察を受けたり、医療従事者に相談をするときは、かならず、服用している薬を知らせるようして下さい。又、処方された薬と他のものを併用しないようして下さい。

III 薬の保存と管理

- ① 薬は、温度、湿度、光線によって変化するものが多いので、原則として、温度は30℃以下(理想20～10℃)に保ち、湿気を防ぐために、開封後はしっかりふたをし、又直射日光のあたらない場所に保存する必要があります。冷蔵庫の中に保存出来れば理想的です。
- ② アルコール、エーテルなどを含む薬や噴霧剤は引火性ですから、火気に近づけないように注意して下さい。
- ③ 添付されている能書はなくさないように薬といっしょにしておきます。薬の名前が分からなくなるよう注意して下さい。
- ④ 古くなった薬や、外観に異常が認められるような薬、ラベルがはがれてわからなくなった薬、また表示された有効期間のすぎたものなどは思いきって捨てるようにしましょう。又とりかえて、必要なときにすぐ役だつより、ふだんから整えておくことがたいせつです。

3. 抗生物質

(I) 化学療法剤の一つである抗生物質

一般に化学療法剤とは、「生体に害を与えることなしに、化学的薬剤によって体内の病原性微生物を死滅させる物質」と定義されています。病気の原因となるような細菌などが体内に侵入したために発病したとき、体外から化学物質(薬)をあえます。その病原微生物を死滅させ、またその発育増殖をおさえ、病気を治療するために用いますが、化学療法剤は、特定の病原体による感染症を治療する目的で、化学的に合成または微生物学的に培養して製したものです。その効果が確実だけに使用法を誤ると、いろいろな副作用や過敏症、副現象の問題などがおこり、はなはだしいときは、生命にかかわる危険もあるもので、国内では、使用にあたり医師の指示又は処方せんを必要とします。

抗生物質は「生物によって生産され、生活細胞の発育を阻止する物質」と定義されていますが、それぞれ特有の抗菌スペクトラムというものを持ち、それぞれの疾患に固有な病原体すべてのなかで特有の範囲にだけ有効なものです。疾患が異なるとそれに対する抗生物質も別のものになりますから、個人の判断で使用することはたいへん危険です。

(2) 注意事項

抗生物質製剤については、上に述べたように、効果が確かなだけに、たいへん危険を伴いませんから、原則として、駐在所の管理下におき、医師や医療従事者の指導のもとに使用する事にしておりますが、滞在地（又は途中移動する場所）から病院又は駐在所が非常に遠い（たとえば4日以上かかる）とか重い細菌性疾患が流行している地域にいる隊員は、駐在員や医師と相談をして、又出発前に医師の指導を受け、それらの指示に従ってください。

(3) 抗生物質の種類

品名	適応症	用法用量	副作用	有効期間
クロラムフェニコール (クロマイシン®) Chloramphenicol	腸チフス、パラチフス、細菌性赤痢、水あたり、食中毒、サルモネラ腸炎、つつが虫病	1日30～50mg/Kg	ときに胃部圧迫感、悪心、嘔吐、軟便、下痢、腸炎、まれに再生不良性貧血、顆粒球減少症、血小板減少症、肝障害、長期連用により、まれに視神経炎、末梢性神経炎	5年
塩酸テトラサイクリン (テクロマイシン®) Tetracycline hydrochloride	下痢とくぐりコレラ、アメーバ赤痢、百日咳、サルモネラ菌、インフルエンザ菌	1日1g	ときに悪心、嘔吐、軟便、口内炎、肛門周囲炎、舌炎 大量投与により舌炎患毛舌、咽頭炎、胃炎、歯牙の褐色を生ずることがある 制酸剤、鉄剤との併用不可	4年
アンピシリン (ソルシン®) Ampicillin	外傷、化膿、扁桃腺炎、淋病、赤痢菌、大腸菌、インフルエンザ菌	1回250～500mgを6時間毎	アレルギー症状、発熱、下痢、軟便	3年

品名	適応症	用法用量	副作用	有効期間
セフェレキソン (ケフレックス®) Cefalexin	グラム陽性球菌、桿菌、グラム陰性球菌、桿菌感染症	1日1～2回	胃腸障害（食欲不振、悪心、嘔吐、胃痛、腹痛、腹部不快感、下痢、便秘） 皮膚症状（発疹、口周囲炎）肝機能障害、しびれ感、気管支喘息、発疹、じんましんなどのアレルギー症状を起しやすいため、同様の体質のある患者には慎重に投与すること。	1年 遮光保存

®は商品名

4. 抗マラリア剤

M P錠について

〔はじめに〕

中南米および南太平洋を除く地域の隊員にとって、もっとも恐ろしい疾患の一つはマラリアです。マラリアの予防についてまったく無知であったり、多少の知識があっても不完全な内服方法を探っていたり、時に予防薬内服を怠る等の理由で、流行地を去ってから発病する人や死亡する人が多くみられます。また薬剤耐性熱帯熱マラリアの存在にも注意する必要があります。したがってマラリアに対する正確な知識を持って、常に対処して下さい。そのため「熱帯医学」の講義や、M P錠の使用説明をよく聞き、特に予防に注意するとともに、流行地及び流行期間を過ぎても、4～6週間は内服を続けることを厳守して下さい。症状が重くなった場合は、現地の医師や医療従事者の指示に従って下さい。

長期、短期を問わず、移動する場合は必ず各自で持参し、予防に心がけて下さい。マラリア流行地であって、マラリアの予防薬及び治療薬を持参しないことは、たいへん生命に危険です。

M P錠

〔組成〕 (H) 錠中 スルファモノメトキシシン 250mg
ピリメサミン 12.5mg

(英) 1 Tab. Sulfamonomethoxine 250mg
Pyrinethamine 12.5mg

〔劑 型〕 白色円形の錠剤

〔用法用量〕 マラリア発熱発作の治療：ふつう第1日に4錠を1回
マラリア発熱発作の治療：ふつう第1日に4錠を1回に内服す
るだけでよい。

重症例には翌日2～4錠を与える。

マラリアの予防：マラリア流行地に入ったら直ちに週1回2錠
ずつ内服はじめ、さらに流行地を去ってから
4～6週間同様に内服を続ける。

最後にブリアキンを1日1回15mgずつ14
日間に内服する。

〔使用上の注意〕

- ・サルファ剤過敏症のものはMP錠を内服しない。
- ・長期間内服を続ける者は3～6ヶ月に1回白血球検査を受ける。
- ・MP錠耐性のマラリア患者が少しあるが、この様な場合は、ク
ロロキンあるいはキニーネを単独に、あるいはMP錠と併用に
与える。(現地の医師や医療従事者に相談する事)
- ・他のサルファ剤(例えばシノミン)と併用しない。
- ・要指示薬

〔副作用〕 まれに発熱、皮膚、粘膜の発疹または紅斑、結膜炎等の症候群
があらわれることがある。

- ・まれに再生不良性貧血、顆粒球減少症、溶血性貧血等の血液障
害が、またまれに肝障害または腎障害があらわれることがある。
- ・過敏症状があらわれることがある。

以上のような異常が認められた場合には服用を中止し、現地
医療従事者の指導に従う。

- ・ときに食欲不振、悪心、嘔吐、下痢等の胃腸障害があらわれる
ことがある。
- ・血液障害、肝障害または腎障害者が用いる場合は、医師や医療
従事者の指導に従い、慎重に服用する。

〔保 存〕 シャ光

常備用医薬品

5・1 内用薬

解熱鎮痛薬

一時的に痛みや発熱を静める目的で作られたものです。ことあげたハイピロン(アスピリンのアルミニウム塩)及びパフエリン(アスピリンのダイアルミネート製剤)は、アスピリンの胃腸障害をとり除き、安定した薬であるが、鎮痛作用は弱く、いわゆる内臓痛には無効で、頭痛・歯痛・生理痛・神経痛などに有効です。

これら解熱鎮痛薬を服用する場合は、かぜ薬と重複して服用しないことです。症状が重篤だったり、同じ症状が長く続く場合は、現地医療従事者に相談して下さい。

ハイピロン錠〔エーザイ〕

〔組成〕 (B) アスピリンアルミニウム 400mg錠
(英) Aluminium aspirin 400mg Tab.

〔剤型〕 白色、酢酸臭、無味の錠剤で、錠にEISA及びHP400のコードが刻印してある。

〔特長〕 アスピリンの胃腸障害をとり除くため、アルミニウム塩の形にしてあるが、やや遅効的である。

鎮痛作用、解熱作用、消炎作用、尿酸排泄作用

〔適応及び用法用量〕

- ・リウマチ、神経痛(大量療法) : 1回2~3錠ずつ
1日3~4回内服
- ・感冒をはじめ頭痛・歯痛・生理痛: 1回2~3錠を用時内服
ただし、1日12錠までとする。

〔使用上の注意〕

- ・アスピリン等に過敏な人は服用しないこと。
- ・胃障害のある人は慎重に服用すること。

〔副作用〕 胃腸障害: 食欲不振、胸やけ、胃痛、悪心、嘔吐等の症状があらわれることがある。

- ・急性アレルギー症: 皮膚・粘膜の浮腫、喘息発作、発疹があらわれた場合服用中止
- ・長期大量服用によりサラチル酸中毒症状を起こす。

パフエリン〔万有〕

〔組成〕 (B) アスピリン 1錠中 330mg
ダイアルミネート 150mg

(㉞) Aspirin 330mg
Dialminato 150mg

〔特長〕 アスピリンのダイアルミネート製剤で、ダイアルミネート緩衝効果によって

- ①アルミニウムの吸収を促進し、鎮痛、解熱効果をすみやかに発現
- ②胃腸障害を著しく減少させ大量療法可能

〔剤型〕 白色円形の錠剤で無味無臭

〔適応〕 ・頭痛、歯痛、発熱、神経痛、リウマチ、生理痛、腰痛、筋肉痛の鎮痛解熱

- ・高熱がでたとき、痛みがはげしいとき

〔用法用量〕 1回2錠、1日2回

〔使用上の注意〕

- ・薬剤に過敏で発疹しやすい人の服用は注意
- ・就寝前に服用するとよい
- ・発汗作用があるので汗をよくおきとることが必要

〔副作用〕 胸やけ、消化不良、悪心、嘔吐などの胃腸障害

〔保存〕 密閉保存(固形の異物が混入することを防ぎ、内容医薬品が損失しないように保護することができる容器で保存)

アスピリン〔バイエル〕

〔組成〕 アスピリン 1錠中 50.0mg

〔特長〕 純度の高い微少で均一な結晶。胃腸内での溶解・吸収がすみやかに効果が速くあらわれる。

〔剤型〕 白色錠剤でわずかに酸味がある。

〔適応〕 頭痛、歯痛、関節痛、神経痛、腰痛症、筋肉痛、生理痛

〔用法・用量〕

1回1錠ずつ、1日3回服用。なお、1日3回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用すること。服用間隔は4時間以上おくこと。

〔使用上の注意〕

ハイピリンと同じ

〔副作用〕 ハイピリンと同じ

セデス〔塩野義〕

〔組成〕 1錠中 0.25g中

エチルヘキサピタール・アミノピリン分子化合物 4.6mg

アミノピリン	27mg
フェナセチン	100mg
無水カフェイン	35mg

〔適 用〕 頭痛，各種神経痛，腰痛，歯痛，生理痛，外傷痛

〔用法用量〕

1回2～3錠 1日6錠まで

〔使用上の注意〕

- 肝障害，腎障害のある人は慎重に服用すること。
- 眠けを催すことがあるので，服用中は自動車の運転等の危険を伴う機械の操作はさけること。
- 妊婦又は，妊娠している可能性のある婦人は，慎重に服用すること。

〔副作用〕

- 1) 過敏症 まれにショック様症状，発疹，紅斑，痒痒感，小疱性角膜炎等の過敏症状をおこすことがあるので，観察を十分に行い，血圧低下，顔面蒼白，脈拍異常，呼吸抑制，発疹等の症状があらわれた場合には，服用を中止すること。
- 2) 血液 まれに顆粒球減少，血小板減少性紫斑病，溶血性貧血等があらわれることがあるので，観察を十分に行い，このような症状があらわれた場合には，服用を中止すること。
- 3) 肝臓・腎臓 まれに肝障害，腎障害があらわれることがあるので，観察を十分に行い，このような症状があらわれた場合には，服用を中止すること。
- 4) 胃腸 とくに悪心，嘔吐，食欲不振等の症状があらわれることがある。
- 5) その他 とくに頭痛，眩暈，眠気，倦怠感等の症状があらわれることがある。

精神神経用剤

精神神経安定剤には，抗不安および鎮静の効果のある穏和精神安定剤と精神病における鎮静を目的とする強力精神安定剤，うつ病の場合の鎮静に有効な抗うつ剤の三種類があります。これら一般に，要指示薬といって，国内では「医師の処方指示によって使用する」とことが定められているものを，毎日服用していると睡眠薬と同じように習慣性になりやすく，服用量が増えてくるため，素人療法はなるべく避け，医療従事者に相談の上，服用するよう心がけて下さい。ここであげたコントロールは穏和精神安定剤で環境の変化や身体的不調，強度の疲労によるイライラ，不

安、緊張、不眠などの諸症状に効果を奏しますが、服用する前にまず原因の除去をはかるようにして下さい。

服用中は、ねむけ、ふらつき、めまいなどの症状があらわれることがあるので、自動車の運転、危険な機械の操作になるべく従事しないよう注意する必要があります。また他の催眠剤との併用あるいは飲酒により、その作用が増強されることがあるので、併用はさけて下さい。

バランス〔山之内〕

コントロール〔武田〕

〔組成〕 (日) クロルジアゼポキサイド 5mg錠
(英) Chlordiazepoxide 5mg Tab.

〔剤型〕 淡黄色、無臭、無味の糖衣錠で、錠に⊙及び107のコードが印刷してある。

〔特長〕 ・精神的・肉体的活動性を失わずに各種の情動疾患に奏効する。
・催眠作用がないため日常活動の低下はみられない。
・速効性かつ持続性である。
・習慣性及び蓄積作用は認められず、副作用も少ない。
・鎮静作用(単なる鎮静で抗精神病作用が弱い)鎮痙作用要指示薬

〔適応〕 いろいろ、不安、緊張、不眠等の諸症状(おとりやすい、神経質、ストレス等による不安、ヒステリー、ノイローゼ)、てんかん

〔用法用量〕

通常1回1～2錠ずつ、1日2～3回服用する。

就眠誘導の目的には、1回2～4錠を用時服用する。

〔使用上の注意〕

- ・服用中は自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事しない。
- ・他の向精神薬との併用、また飲酒により作用が増強されることがあるので、服用中はさけること。
- ・心・肝・腎障害、脳に基質的障害のある人および妊婦は服用しない。

〔副作用〕 ときにねむけ、ふらつき、めまい、口渇、倦怠感、歩行失調、頭痛、悪心、便秘等の胃腸障害、多幸症、黄疸、浮腫、まれに顆粒減少症、白血球減少症があらわれる。大量を長期連用すると依存性を生ずる。また大量連用後、投与を中止すると、ときにせん妄、まれに痙攣等の離脱症状があらわれることがある。過敏症状があらわれた場合は、服用を中止すること。

鎮 座 剤

ブスコパン〔田辺〕

- 〔組 成〕 (I) 臭化ブタルスコボラミン 10mg錠
(Ⅱ) Scopolamine buthylbromido 10mg Tab
Buthylecopolamino bromido (別名)
Hyoscine N-buthylbromide (別名)

〔剤 型〕 白色、無臭、苦味の糖衣錠

〔特 長〕 腹部中空臓器の副交感神経節に特異的に作用し、消化管、泌尿器、生殖器などの痙攣を緩解する。

副作用(視力障害、口渇、心悸亢進等)が極めて少ない。胃腸の救急鎮痛薬(しかし根本的治療にはならない)である。副交感神経節遮断作用

〔適 応〕 強い痛みや胃けいれんを併う急性腹症、潰瘍性消化器疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎、十二指腸炎、消化器系、泌尿、生殖器系のけいれん、疼痛)

〔用法用量〕

通常1回1～2錠ずつ、1日3～4回毎食後・就寝前に服用または疼痛時に用時服用。

〔使用上の注意〕

緑内障、重症心臓疾患、幽門閉塞、前立腺肥大症のある人は、服用しない。

〔副作用〕 口渇、脈拍増加、眼の調節障害、またときに弛緩性便秘、鼓腸、膨満感等の胃腸症状、排尿障害、心悸亢進、頭痛。

過敏症状があらわれた場合は服用を中止する。

総合感冒薬

かぜは、いろいろな病原体で起こる急性上気道炎の症状を呈する疾病の総称で、単一の病気ではないため、いろいろな症状をあらわします。ほとんどのかぜ薬は、病源を退治できず、かぜにともなう諸症状を改善することを目的とした対症療法薬で、解熱鎮痛剤を中心に、抗ヒスタミン剤、鎮咳去たん剤、ビタミン剤が配合されています。かぜ薬は一般家庭でもよく使われるものでほとんどよく似た成分を含んでいますが、ここには新ルルゴールドSをあげました。

服用時の注意として、(1)しばしば空腹時に飲んで胃腸障害を起こすので、食後なるべく30分以内に服用。(2)他の解熱鎮痛薬や抗ヒスタミン剤との併用はさけて下

さい。

かぜは、早いうちに治すことが大切ですので、薬だけ飲んでいればよいというものではなく、十分な休養と睡眠が絶対的条件だということを知っておいて下さい。又かぜの諸症状について、症状別一覧表（P.44）も参考にして下さい。

新ルルゴールドS〔三共〕

〔組成とその特長〕

作用	成分	3錠中	特長
抗ヒスタミン	マレイン酸クロルフェニラミン	25 mg	かぜのアレルギー症状（鼻水、くしゃみ）をおさえる
解熱鎮痛	アスピリンアルミニウム（ハイピリン）	135 mg	熱を下げ、頭痛、関節の痛みをやわらげる
	アセトアミノフェン	150 mg	
	エテンザミド	105 mg	
鎮咳	クエン酸カルベタペンタン	10 mg	せきをしずめる
去痰	グアヤコールスルホン酸カリウム	63 mg	たんを切れやすくする
	無水カフェイン	40 mg	頭痛をやわらげる
ビタミン	ビオタミン	8 mg	かぜの時消耗の激しいビタミンB ₁ 、B ₂ 、Cを補う
	ビタミンB ₂	4 mg	
	ビタミンCナトリウム	30 mg	

ピリン疹のできる特異体質の人のために、配合された非ピリン系かぜ薬です。

〔剤型〕 朱色の糖衣錠

〔適応症〕 かぜの諸症状（鼻水、鼻づまり、くしゃみ、のどの痛み、せき、たん、悪寒、発熱、頭痛、関節の痛み、筋肉の痛み）の緩和

〔用法用量〕

1回3錠、1日3回服用

〔使用上の注意〕

- アレルギーをおとしやすい体質の人は注意して服用する。
- ねむけを起こすことがあるので、服用してから数時間以内に自動車または機械類の運転操作をしないこと。

- ・定められた服用法をよく守ること、又他の同効薬剤との併用はさける。

抗ヒスタミン剤

プロエントラ〔田辺〕

〔組成〕 1錠中塩酸トリプロリジン (Triprolidine hydrochloride) 外層 2.0 mg, 中間層 5.5 mg, 内層 2.5 mg の三層からなる。

〔剤型〕 白色の円形の錠剤
W B L O M B 及び M 4 A のコードが刻印してある。

〔特長〕 消化管内で徐々に遊離され効果は 24 時間持続する。
抗ヒスタミン作用、抗アナフィラキシー作用
副作用 (特にねむけ) が少ない。

〔適応〕 アレルギー性諸疾患、鼻炎、気管支喘息、枯草熱、アレルギー性偏頭痛、じんましん、濕疹、皮膚炎、メニエル病、レントゲン造影、かぜ、ヒスタミン性月経困難の予防および治療、外用剤を使用してもかゆみがとまらないとき、毒蛾のように一べんに広範囲が侵されたとき。

〔用法用量〕

1日1錠をかまずに、服用時刻は午後 6～7 時の間が最も効果的

〔使用上の注意〕

- ・服用中は自動車の運転等危険を伴う機械操作に従事しない。
- ・かぜ薬等と併用しないこと。

〔副作用〕 ねむけ、脱力感、口渇、倦怠感

健胃整腸剤

新タケダ胃腸薬〔武田〕

〔組成とその特長〕

作用	成分	3錠中	特長
制酸	炭酸水素ナトリウム	400 mg	胸やけ、げっぷなどの過敏症状を改善 制酸及び胃粘膜を保護
	酸化マグネシウム	75 mg	
	メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	150 mg	
	乾燥水酸化アルミニウムゲル	75 mg	
鎮痛	ロートエキス	10 mg	胃痛をやわらげる

作用	成分	3錠中	特長
消化酵素	マミターゼ	2.0 mg	消化
健胃	ケイヒ油	0.6 mg	特有の芳香と味が消化液の 分泌を促す
	ショウジ油	0.6 mg	
	ウイキョウ油	1.2 mg	
	トウヒ油	1.6 mg	
	モノメントール	4 mg	サッパリした清涼感
	ゲンチブナ末	5.0 mg	苦味が消化を促す
	カンゾウ末	1.0 mg	特有の甘味があり、胃腸の 緊張をやわらげ、痛みをし ずめる
	グリチルリチン酸	1.0 mg	
ビタミン	ビタミンB ₁ 硝酸塩	3 mg	新陳代謝

〔剤型〕 三層錠になっており、外層（制酸）、内層（鎮痛、消化、健胃）
 〔適応〕 胸やけ、げっぷ、胃酸過多、食べすぎ、飲みすぎ、食欲不振、消化
 不良、胃痛、急・慢性胃炎、胃弱、はきけ、嘔吐、二日酔によるむ
 かつき

〔用法用量〕

1回3錠1日3回、毎食後かまぎに服用

〔副作用〕 過敏症状があらわれた場合は服用を中止する。

〔保存〕 使用後は必ず容器のフタをしっかりと閉める。

1度ビンのフタをあけた後、6カ月以上たったものは使用しない。
 湿気の少ない涼しい、直射日光のあたらない所に保存

新三共胃腸薬〔三共〕

〔組成〕 1包（1.5g）中

タカジアスターゼN	5.0 mg
ラクボン原末	1.0 mg
沈降炭酸カルシウム	22.5 mg
オウレン末	1.5 mg
オウバク末	3.5 mg
ケイヒ末	74.5 mg
ウイキョウ	2.0 mg
ショウキョウ末	24.5 mg

リンシロウ末	1 mg
チロウ末	1.0 mg
カンゾウ末	118 mg
メタケイ酸アルミン酸	
マグネシウム	400 mg
重炭酸ナトリウム	300 mg

〔適 応〕 食べ過ぎ、飲み過ぎ、胸やけ、胃酸過多、溜飲、むかつき、腹部膨満感、げっぷ、消化不良、食欲不振、悪心、嘔吐、胃炎、胃痛、胃弱、胃拡張、胃下垂、下痢、軟便、食欲減退

〔用法用量〕 1回3錠，1日3回

ワカ末糖衣錠〔中滝〕

〔組 成〕 1錠中

塩化ベルベリン 50 mg

〔適 応〕 急・慢性下痢、急・慢性胃・腸カタル、食中毒（食あたり、水あたり）、胃痛、腹痛、消化不良、鼓腸、腸内異常醗酵

〔用 法〕 通常成人1回1～2錠，15歳未満～7歳まで，1回1錠を1日3回食後服用

キョベジンロコウ錠〔興和〕

〔組成・剤型〕

1錠中に有効成分として、メチル・メチオニン・スルホニウム・クロライド2.5mgを含有する白色の糖衣錠である。メチル・メチオニン・スルホニウム・クロライドは下記の構造式を持つ白色の結晶又は結晶性粉末で、特異な臭気と弱い塩味を有する。吸湿性で水に溶け易く、エタノール・エーテルには溶け難い。分解点は約140℃である。

〔特 長〕 ・胃・十二指腸潰瘍及び胃炎に随伴する諸症状、特に自覚症状を軽減又は消失させると共に、潰瘍組織を修復再生する。
 ・胃切除後の残胃粘膜の変性防止、保護作用がある。
 ・肝機能を正常化する作用があり、特に肝炎の諸自覚症状を改善する作用が認められている。
 ・肝疾患を伴う消化性潰瘍に対しては、肝機能の改善により、潰瘍の治療がもたらされるので、本剤の投与はこの面からも目的に合致し

効果的と云える。

〔適 応〕 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎、急性肝炎、慢性肝炎

〔用法用量〕

通常成人は、1回1錠、1日3回食後内服する。

症状により1回量を2～3錠まで増量する。

〔保 存〕 使用後は確実に容器を密閉し、湿気を避けて貯えること。

〔副作用〕 鼓腸、便秘

正 露 丸 (大幸)

〔組 成〕 クレオソートを主成分とし、他に苦味健胃剤、鎮痙剤等を配合した
もの。

〔劑 型〕 かつ色の直径5mmくらいの丸剤で、クレオソート臭がある。

〔特 長〕 胃腸内の消化器中に働いて殺菌消毒作用を有し、大腸内の殺菌、防
腐の目的に作られた整腸剤

〔適応症〕 胃腸、胃弱、腹痛、嘔吐、食欲不振、下痢、瀉飲、消化不良、胃カ
タル、腸カタル、水あたり、食あたり、腸内異常醗酵、虫歯の痛

〔用法用量〕

1回3粒1日3回毎食後白湯又は清水にて服用、虫歯の痛みには、
本剤を適宜虫歯に填充する。

ミヤリサンA (宮入菌剤研究所)

〔組 成〕 宮入菌末 20mg、硝酸ナフミン0.5mg (1錠中)

〔劑 型〕 白色の円形の錠剤で、Mの刻印

〔特 長〕 腸内有益菌の発育を補助し、有害菌を阻止する宮入菌が腸内菌群の
バランスをとり酸度を調節するので疾患、治療のみならず消化吸収
も向上する。

〔適応症〕 急・慢性腸カタル、消化不良、腸内異常醗酵、自家中毒、鼓腸、下
痢、便秘、便通不整、腸内菌叢の正常化、緑便、腸モエリヤ症、抗
生物質療法ならびに化学療法に際して起る下痢、腸内腐敗抑制、
食餌性じんましん、にきび、吹出物

〔用法用量〕

1回1～2錠ずつ1日3～4回服用(急性症状には初回4錠、その
後3～4時間ごとに1～2錠ずつ服用)

便秘治療剤

強力ソルベン錠(糖衣錠)〔小野〕

〔組成・剤型〕

1錠中 有効成分を含有する白色の糖衣錠である。

ジオクチルソジウムスルホサクシネイト 30mg

ダンスロン 25mg

〔特長〕・物理的作用により便塊を膨潤軟化し、すみやかに自然な便通をもたらす。

・規則正しい便通が得られ、便秘癖の改善に役立つ。

〔適応〕慢性・急性便秘、各種便秘にもとづく食欲不振・宿便・肌あれ・頭重、過食、食傷、腸内異常發酵。

〔用法用量〕

本剤は、通常就寝前に2～4錠を1回に経口投与する。

本剤は、かまずにそのままコップ1杯の水と共に服用する。

症状により更に増量する。

長期連用は避ける。

〔使用上の注意〕

(1) 次の患者は服用しないこと。

腹痛、嘔気、嘔吐のある患者。

(2) 授乳婦の服用

ヒト母乳中へ移行し、乳児に緩下作用があらわれることがあるので、授乳中の婦人は服用しないこと。

解毒剤

タチオン〔山之内〕

〔組成・剤型〕

1錠中に還元型グルタチオン50mgまたは100mgを含有する白色の糖衣錠で、50mg錠には社マークと「308」、100mg錠には社マークと「309」の記号がそれぞれプリントされています。^X

タチオン散は1g中に還元型グルタチオン200mgを含有する白色の細粒製剤です。

〔適応〕薬物中毒、妊娠中毒、自家中毒、金属中毒

〔用法・用量〕

50mg錠は、通常1回1～2錠宛、1日1～3回投与します。

100mg錠は、通常1回1錠宛、1日1～3回投与します。
散は、通常1回0.25g～0.5g宛、1日1～3回投与します。
散は服用時、果汁、砂糖水等に溶解して投与することができます。
尚年令、症状により適宜増減してください。

〔副作用〕 発疹または食欲不振、悪心、嘔吐、胃痛等の胃腸障害

〔使用上の注意〕

過敏症状があらわれた場合には服用を中止すること。

〔保存〕 タチオン散は吸湿性であるので密栓して保管すること。

サルファ剤

シノミン〔塩野義〕

〔組成〕 (日) スルフィソメゾール 500mg錠
(英) Sulfisomazole 500mg Tab.
Sulfamethoxazole (別名)

〔剤型〕 錠剤

〔特長〕 ・少量で広範囲病原菌に強い抗菌力を示す。
・長時間有効血中濃度を維持する。(持続性)
・副作用が極めて少なく苦味が殆んどない。
・要指示薬

〔適応〕 発熱をともなった強い下痢(吐気、悪感、そして下痢、その上38°以上の高熱が続くとき)たとえば、細菌性腸炎、細菌性食中毒、二次感染をともなったウイルス性のかぜ、細菌性咽頭炎(ただし、このような場合、しろうと療法をせず、現地医師の診断を受ける。)

〔用法用量〕

初回4錠、以後12時間ごと2錠を内服(1日2回)

〔使用上の注意〕

サルファ剤に対し過敏症の人は服用しない。

〔副作用〕 ・まれに再生不良性貧血、顆粒球減少症、血小板減少症、溶血性貧血等の血液障害、肝障害、腎障害があらわれる。異常が認められた場合には、服用中止。
・まれに発熱、発疹、頭痛等の症状があらわれるので、この場合には、服用中止。
・ときに食欲不振、悪心、嘔吐、下痢等の胃腸障害があらわれる。
・過敏症状があらわれた場合には、服用中止。

〔保存〕 ショ光保存

栄 養 剤

総合ビタミン錠

〔組 成〕 ビタミンA、ビタミンB群、ビタミンC、ビタミンD、ビタミンE等配合された総合ビタミン剤です。

〔剤 型〕 黄色の糖衣錠

〔適 応〕 肉体疲労時に（やたらと眠く、倦怠感が強い時）諸種熱性・伝染性疾患の発熱時の補助療法、病中および病後の栄養補給、胃腸疾患・慢性下抑等の消化器障害、栄養失調

〔用法用量〕

通常、1日1～2錠を1～2回に分けて服用。

〔使用上の注意〕

食欲不振、悪心、嘔吐、発熱、頭痛、皮膚乾燥等のビタミンA、過敏症をおとすことがあるので、このような症状があらわれた場合には服用を中止する。

〔保 存〕 直射光、なるべく冷所保存

口 腔 用 剤

オラドール口中錠〔チバガイギー〕

〔組 成〕 (日) 臭化フェノドデシウム 0.5 mg錠
(英) Phenododocium bromido 0.5 mg Tab

〔剤 型〕 白色の円形の錠剤

〔特 長〕 ・口腔粘膜より吸収させ口内を殺菌
・強い殺菌作用を示す。（細菌、真菌に対して）

〔適 応〕 ・口腔および咽喉内の炎症の予防と治療
・口内炎、のど荒れ、かすれ声、扁桃腺炎の予防と治療

〔用法用量〕

唾液内で徐々に溶かしながら用いるもので、錠剤をかみ砕いたり、飲みこんだりせずできるだけ長く口中に含んで、有効成分が唾液中に長時間保たれるようにする。3～4時間ごとに1錠ずつ用いる。咽喉がはれたり、痛むようなときには、口中錠を最初短時間毎に用いて、痛みが軽くなるに従って回数を少なくする。はれや痛みがなくなった後も引き続き1日位用いる。

〔使用上の注意〕

・口腔内で唾液により徐々に溶かしながら用いるもので、錠剤をかみ

砕いたり、飲みこんだりせず、できるだけ長く口の中に含んで、有効成分が唾液中に長時間保たれるようにする。

〔副作用〕 ときに腹痛、まれに胃および腹部重圧感、悪心、下痢、舌のしびれ、
感等の症状があらわれることがある。過敏症状があらわれた場合服用
を中止する。

〔保存〕 中袋開封後は、湿気、直射光をさけて保存。

駆虫剤

ピベニン錠(エーザイ)

〔組成〕 1錠中

アジピン酸ピペラジン240mg(ピペラジン・ヘキサハイドレート
として200mg)を含有する白色の錠剤

〔特長〕・回虫も焼虫も同時に駆除できる。

- ・駆除効率が高い
- ・胃内回虫にも効果がある

〔適応〕 回虫、焼虫の駆除

〔用法・用量〕

☆回虫には(1日量)

3～5才……………	6錠	12～14才……………	15錠
6～8才……………	8錠	15才以上……………	20錠
9～11才……………	10錠		

☆焼虫には(1日量)

3～5才……………	4錠	9～11才……………	7錠
6～8才……………	5錠	12才以上……………	10錠

上記の年齢に応じた1日量を起床時1回又は起床時と就寝前の2
回に分けて1週間服用する。

〔使用上の注意〕

- ・回虫駆除と焼虫駆除との場合では用法・用量が異なるので鑑別を十分に行ない慎重に使用すること。
- ・テンカン患者は服用しないこと。

〔副作用〕①大量服用すると嘔吐、頭痛、めまい、筋力低下、振せん、共同運動
障害などがあらわれることがある。

②低酸症、無酸症および胃粘膜疾患の人が服用すると、頭痛、めまい、
嘔吐、腹痛、下痢などの症状があらわれることがある。

③まれに、麻疹その他のアレルギー反応が起こることがある。

上記の①③の場合は、服用中止により症状は消失する。
②の場合、減少、休養などして専門家の指示に従うこと。

コンバントリン〔含糖ファイザー〕

- 〔組成〕 (H) パモ酸ピランテル(ピランテルとして100mg錠)
(A) Pyrantol Pamoate
- 〔剤型〕 うすい黄色の分割錠(素錠)
- 〔特長〕 ・広域駆虫剤で副作用が少ない(宿主に対する毒性低い)
・1回の服用で駆虫できる
・食事時間に関係なく服用できる
・幼若虫より成熟虫に対する効果がよい
- 〔適応〕 回虫、鉤虫、蟯虫の駆除(予防のためには使用しない)
- 〔用法用量〕 体重1kg当たりピランテルとして10mgを1回服用
- 〔副作用〕 ときに一過性の頭痛、腹痛、悪心、嘔吐などの症状があらわれることがある。
- 〔保存〕 しゃ光保存

抗トリコモナス剤

フラジール内服錠〔塩野義〕

- 〔組成、剤型〕 1錠中メトロニダゾール250mgを含有する白色糖衣錠
- 〔適応〕 トリコモナス症(膈トリコモナスによる感染症)
- 〔用法・用量〕 メトロニダゾールとして、通常成人1クールとして1回250mg、1日2回、10日間経口投与する。
- 〔副作用〕 1) 過敏症 発疹等の過敏症状があらわれることがある。
2) 消化器 舌苔、食欲不振、悪心、胃部不快感、下痢、腹痛等の症状があらわれることがある。
3) 血液 白血球減少があらわれることがある。
4) 生殖器 治療実施中にCandida albicans が出現することがある。
5) その他 暗赤色尿があらわれることが報告されている。
- 〔使用上の注意〕 1) 次の人は服用しないこと
・以前にフラジールに対する過敏症を起した人

• 血液疾患のある人

• 脳、脊髄に器質的疾患のある人

• 妊婦（とくに妊娠8カ月以内）

2) 飲酒により、腹部の痙攣、嘔吐、潮紅があらわれることがあるので、服用中は飲酒をさけること。

5・2 外 用 薬

殺菌消毒薬

ハイレンE〔三共〕中性薬用せっけん

〔組成〕 ラウリル硫酸ナトリウムを主成分とした中性の薬用石けん

- 〔特長〕
- 中性の石けんで皮膚に対する刺激が少ない。
 - 普通の石けんでは泡立たない温水や海水でも使用可
 - 皮膚の洗浄，殺菌，消毒作用を有す。

〔効能〕 軽いかぶれ，あせも，ただれ，湿疹，かきび，皮膚の洗浄，手指の消毒

- 〔使用法〕
- 普通の石けんのよう湯または水を用いて洗浄する。
 - 又は，微温湯中に，ハイレンEを溶解しておき，これに局部を浸して洗浄する。
 - かぶれ，ただれに用いる場合には，水に浸したガーゼにハイレンEをすりつけて泡立たせ局部を消拭し，水でよく洗い落とす。
 - 普通の石けんより少な目に使用
 - 使用後は普通の石けん同様，水切れをよくし乾燥した場所に保存する。
 - 荒れ性の方は，無刺激性のクリームを使用する。

〔注意〕 皮膚表面の殺菌と清浄化に効果のある石けんで，普通の石けんの代用はしないで下さい。

オキシドール

〔組成〕 過酸化水素 H_2O_2 2.5～3.5%を含む

〔剤型〕 無色澄明な液，無臭かまたはオゾン様の臭がある。

- 〔特長〕
- 創面のカタラーゼに接触して酸素を発生する。この酸素は強い酸化力を有し有機物を分解し，殺菌作用を呈する。
 - 持続性に乏しく，浸透性も弱い。
 - 発泡により創面を機械的に清浄化する効果がある。

〔適応〕 うがい，咽喉炎，喉頭炎の口内洗浄，傷口の消毒，組織の清浄化，歯牙清浄，器具洗浄

〔用法用量〕

そのまま，または3～10倍に希釈して使用

〔使用上の注意〕

- うがいに用いる場合には，口腔粘膜を刺激するからあまり濃いものは注意する。

- 酸化剤または還元剤と接触すると分解、またはアルカリ性になると激しく泡立って分解する。
- 強い振動あるいは光により分解する。
- 土の上にごぼしてみても泡の立たなくなったものは効果がない。
- 一度ふたをあけてから半年以内を使用期間の日安とする。

〔保存〕 しゃ光した気密容器に入れなるべく30℃以下で保存。
使用後は必ず容器のフタをしっかりと閉める。

希ヨードチン

〔組成〕 1.000 ml中ヨードチンキ500 ml, 70V/V%エタノール500 ml

〔剤型〕 赤褐色の液で、ヨード臭がある。

〔特長〕 皮膚粘膜に対する作用は緩和である。

〔適応〕 皮膚創傷面の殺菌消毒、術前の皮膚消毒、
傷口の消毒

〔用法用量〕

患部塗布

〔使用上の注意〕

マーキ、ロクローム液と同時に使わない。

〔副作用〕 • ヨウ素過敏症に注意をする。(かぶれやすい人もいるので注意が必要)

• 乱用すると表皮のはく離を伴う急性の皮膚炎を起こすことがある。

〔保存〕 気密保存(コルク又はゴム栓をしたガラス容器)

使用後は必ず容器のフタをしっかりと閉める。

アクリノールガーゼ

〔剤型〕 アクリノールの希釈溶液にガーゼを浸したものです。

〔用法用量〕

傷口を清潔にしたのち、傷口にガーゼをあて、その上に油紙をおいて、包帯をします。

〔適応〕 化膿剤の消毒、傷腔内に灌注、タンポン、膀胱、尿道洗浄、化膿疹

〔使用上の注意〕

• ヨードチンキとの併用をさける。

• オキシテトラサイクリンの抗菌力を低下させる。

• 衣類皮膚につくと洗い落としが困難

〔保存〕 しゃ光

マキロン〔山之内〕

〔組成〕 60ml中 塩酸ジブカイン60mg, 塩酸ナファゾリン60mg, マレイン酸クロルフェニラミン120mg, 塩化ベンゼトニウム60mg

〔適応〕 創傷(すり傷, きり傷), 靴ずれ, 虫さされ, とびひ, 火傷, 手指の殺菌・消毒, 肛門の消毒

〔用法・用量〕

1日数回患部に噴霧又はガーゼ等に浸して塗布する

〔使用上の注意〕

- 眼科用としては使用しないこと
- 皮膚の刺激感等の過敏症があらわれた場合使用を中止すること

鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎, 引赤剤

フルコート軟膏〔田辺〕

〔組成〕 (E) フルオシノロンアセトニド 0.01%
(*) Flucinolono acetoniido 0.01%

〔剤型〕 軟膏

〔特長〕 • 極めて強力な抗炎症, 抗アレルギー作用を現わす局所剤

- 効果発現は迅速で, 他のステロイド剤で効果不十分の場合でも期待できる。
- 副腎皮質ホルモン剤であるため, 大量又は長期連用は, 個人療法ではさける。

〔適応〕 • 頭部その他の毛髪部位或は摩擦部位における炎症性皮膚疾患, 湿疹, 主婦湿疹で手や指に小さな水疱や, 指紋がなくなるような変化をきたしたもの。

- アレルギー性炎症
- 日やけ

〔用法用量〕

1日1~3回適量を塗布

〔使用上の注意〕

- すでに皮膚結核, 単純性疱疹, 水痘, 湿疹様変化を伴わない白癬等の皮膚疾患のある場合には使用しない。
- 副腎皮質ホルモン剤であるため, 使用に際しよく注意して用いる。

• 眼科用として使用しない。

〔副作用〕• 皮膚の化膿性感染症があらわれた場合中止する。

皮膚の刺激感等の過敏症状があらわれた場合には中止する。

• 大量あるいは長期に使用した場合、今まで働いていた副腎皮質の働きが抑制されることがある。

長期間同じ部位に使用していると、皮膚は萎縮して表皮は薄くなり、時によると皮膚の血管が透けて見えるようになることがある。また化膿菌に対して皮膚が弱くなって、おできがでやすくなることもある。またにきびができることもある。

〔保存〕 シャ光冷所保存

テラマイシン軟膏〔含糖ファイバー〕

〔組成〕 1g中塩酸オキシテトラサイクリン30mg(力価)を含む。

〔特長〕 皮膚の化膿性疾患にすぐれた効果を示す広範囲抗生物質テラマイシン(オキシテトラサイクリン)の軟膏。グラム陽・陰性菌、スピロヘータ、リクッチア、大型ウィルスなどの微生物に対し広い抗菌作用を有し、局所効果がすぐれている。

〔適応〕 オキシテトラサイクリン感受性菌による、以下のような諸感染症の治療ならびに感染予防に使用する。

- 表在性化膿性感染症
- 膿皮症(おでき、ねぶと、とびひ、にきびなど)
- 創傷、火傷(きり傷、すり傷、やけど)に伴う感染症
- 外科手術後の感染予防

〔用法用量〕

患部を清潔にした後、テラマイシン軟膏を1日数回患部に塗布するか、又は患部の広さに応じた滅菌ガーゼにのばし、1日数回貼りかえます。

なお、重症感染症、全身感染症の疑いがあるときは直ちに医師の診察をうけてください。

〔使用上の注意〕

眼科用には使用しないこと。

〔副作用〕 まれに皮膚の発疹、発赤等の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には、使用を中止して下さい。

ベトネベート軟膏・クリーム〔第一〕

〔組成〕 ベトネベート軟膏：1g中吉草酸ベタメタゾン1.2mgを含有する白色～ほとんど白色の半透明の軟膏です。

ベトネベートクリーム：1g中吉草酸ベタメタゾン1.2mgを含有する白色のクリームです。

〔特長〕 ・ 局所抗炎症作用にすぐれ、全身作用は少ない。

- ・ 抗菌作用により二次感染症にも有効
- ・ 副腎皮質ホルモン剤であるため、大量又は長期連用は個人療法ではさける。

〔適応〕 1. 皮膚科領域

湿疹および類症：急・慢性湿疹、接触性皮膚炎、小児湿疹、貨幣状湿疹、自家感作性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性湿疹

じんましんおよび痒疹：皮膚掻痒症、神経皮膚炎、ピダール苔癬、じんましん、結節性痒疹

中毒疹および薬疹

角化症：乾癬、進行性手掌角皮症、尋常性角鱗癬、毛孔性紅色ひこう疹

紅斑症：多形滲出性紅斑、結節性紅斑

水疱症：シューリング疱疹状皮膚炎、尋状性天疱瘡、落屑性天疱瘡、増殖性天疱瘡

紅皮症：ヘブラ紅色 糖疹

毛髪疾患：円形脱毛症、悪性円形脱毛症

その他：火傷（軽症）、凍症、蜂刺整症

2. 耳鼻咽喉科領域

耳疾患：湿疹性外耳道炎、耳介皮膚炎、耳介周囲炎、術創

鼻疾患：鼻前庭及び周囲炎、進行性壞疽性鼻炎、鼻腔・副鼻腔手術創

咽喉頭疾患：口内炎、舌炎、腐蝕性食道炎、食道拡張時

3. その他

痔核

〔用法用量〕

適量を1日数回患部に塗布する。

〔使用上の注意〕

フルコート軟膏と同じ

- 〔副作用〕・皮膚の化膿性感染症があらわれた場合中止する。
 ・皮膚の刺激感等の過敏症状があらわれた場合には中止する。

レスタミンコーワ軟膏〔興和〕

- 〔組成〕(日) 塩酸ジフェンヒドラミン 1%
 (英) Diphenhydramine hydrochloride 1%

〔剤型〕 軟膏

〔特長〕 鎮静作用が強いため夜間の掻痒には非常に有効である。

〔適応〕 軽度の湿疹、かぶれ(接触皮膚炎)、虫さされ(ぶよ、蚊、南京虫などに刺されたとき)、しもやけ、皮膚掻痒症

〔用法用量〕

患部に薄く一日数回塗擦

〔使用上の注意〕

ジメジメした湿潤性の疾患には用いない。

〔副作用〕 皮膚が過敏で発赤、腫脹(はれ)などの過敏症状があらわれた場合には使用中止。

〔保存〕 使用後は必ず容器のフタをしっかりと閉め、なるべく冷所に保存。

オイラックス〔藤沢〕

〔組成〕 クロタミトンを10%含有する白色の親水軟膏

- 〔特長〕 1. 鎮痒効果の発現がすみやかである。
 2. 一回の塗布で6～8時間効果が持続する。
 3. 習慣性はなく、連用しても効力の減弱がない。
 4. 軟膏基剤はクリーム状であって、適度の芳香を有し、使用が快適である。

〔適応〕 急性・慢性湿疹、脂漏性湿疹、皮膚炎(接触性皮膚炎、薬物性皮膚炎、アトピー性皮膚炎を含む)、蕁麻疹、神経皮膚炎、皮膚掻痒症、小児ストロフルス、凍傷、中寄疹、紅皮症、乾癬、蕁麻疹、白癬症、昆虫刺傷

但し急性小水疱性皮膚症状には適用を避けること。

〔用法・用量〕

掻痒部位にうすく塗布するか塗擦する。

〔使用上の注意〕

- ・親水軟膏型であるため滲出性の皮膚炎には使用しないこと。
 (急性の炎症を鎮めた後に使用する)

・効：小児に使用する場合、広範囲の部位に使用することはさけること。

・眼科用としては使用しないこと。

〔副作用〕 皮膚の刺激感等の過敏症状があらわれた場合は使用中止すること。

〔保存〕 ・かたくふたをし、高温をさけること。

・ステンレス以外の金属（ブリキ、スズ、アルミなど）に接触すると変質するおそれがあるので、小分けの場合には金属製の器具、容器を使用しないこと。

チコロザーネ〔エイザイ〕

〔組成〕 1g中 ビタミンA油（2,000 ビタミンA単位）

ビタミンD₂（エルゴカルシフェロール）……12.5μg

酢酸d1-α-トコフェロール（ビタミンE,酢酸エメテル）

……2.0mg

〔適応〕 皮膚乾燥症、角化症、皮膚炎、湿疹、火傷、膿胞化の少ない尋常性性瘡、日光皮膚炎など

〔用法・用量〕

患部に直接塗布するかガーゼ等に塗布して患部を覆い使用する。

オロナインH軟膏〔大塚〕

〔組成〕 クロルヘキシジングルコネート20%液 1%

軟膏、基剤 99%

〔適応〕 きり傷、すり傷、やけど、虫さされ、吹出物、ひび、あかぎれ、凍傷、あせも、ただれ、いんきんたむし、痔疾など

〔用法・用量〕

・患部に直接塗布するか、ガーゼ等に塗布して患部を覆い使用する。

・肌には米粒程度を手で拵げかるくすりこむ。

・殺菌力が強力であるので切傷の場合、ヨーチンや赤チンで消毒せず、傷口にそのままつける。

メントム〔タツミ薬品〕

〔組成〕 軟膏100g中 白色ワセリン 86g

黄色ワセリン 86g

パラフィン 10g

ハッカ脳 8g

カンフル	7%
ホウ酸	5%
サリチル酸メチル	2%
竜腦	1%

〔適応〕 切傷、擦過傷、韌傷、火傷、ひび、あかぎれ、凍傷、湿疹

〔用法〕 適量を患部に塗布する。

キンカン〔金冠堂〕

〔組成〕 100ml中：*l*-メントール1.97g、*l*-カンフル2.41g、サリチル酸0.57g、アンモニア水2.130ml、トウガラシチンキ0.35ml、朝鮮ニンジンチンキ2.509ml、メタノール4%含有変性エタノール4.937ml。

〔剤型〕 液

〔特長〕 鎮痛鎮痒消炎作用の強い薬剤に加えて、アンモニアの配合によるアンモニウムイオンの強い皮膚浸透性と局所刺激性、塗布部分一帯の熱を大量に奪い去る性質、酸を中和する性質がキンカンの薬効を強く独特にする。

〔適応症〕 肩こり、腰の痛み、うちみ、神経痛、リウマチ、くじき、虫さされ、水虫、いんきん、にきび、たむし、皮膚病、しもやけ、ふけ、頭や皮膚のかゆみ、外傷、やけど。

〔用法用量〕

患部とそのまわりに広く塗布、乾くのをまって数回以上十分に塗る。20倍から40倍にうすめた液で患部を湿布する。

〔注意〕 皮膚の特に弱い人は万一のかぶれの予防のため約10倍に水でうすめて使用すること。

アンモニア水

〔組成〕 アンモニア 0.5～10.5 W/V%を含む。

〔性状〕 無色澄明な液、特異な強い刺激性のあるにおいがある。
アルカリ性。

〔特長〕 アンモニア水は強い局所刺激作用を呈し、局方濃度のものでも短時間の皮膚接触で灼熱感、発赤をきたし、長時間にわたると局所の壊死をまねく。アンモニアガスの吸入により、反射的に中枢興奮をよび、血圧上昇、呼吸亢進をきたす。アンモニアは去たん作用を呈するが、これは局所刺激による気道分泌の反射的亢進と、吸収後一部

炭酸塩となって気管支粘膜から分泌され、溶解性去たん作用を現わすとともに気管支の繊毛運動を促進することによる。

〔適応〕 反射性呼吸興奮作用を利用して失神または昏睡時に鼻粘膜に塗布するかき薬とする。去たん薬としてアンモニア水（1日数回、0.15～0.5g）、芳香アンモニア精、アンモニアウイキョウ精として内服する。また昆虫の刺・咬傷に塗布する。

〔副作用〕 大量を内服するとその刺激性のために口腔、咽頭、胃の激痛が起こり、強度の胃炎によって嘔吐、虚脱が生じる。刺激が強度のときは声門浮腫を発生し呼吸困難から窒息死をまねくことがある。目にはいった場合には結膜炎を起こすが、このときは等張食塩水で洗うのがよい。

寄生虫皮膚疾患用剤

エンベシドクリーム

〔組成および剤型〕

1g中クロトリマゾール10mgを含有する白色の均一なクリーム剤。

〔特長〕 ・スペクトルの広い抗真菌剤である。

最小発育阻止濃度（M i c）は低く、強力な殺菌作用を示す。

・皮膚へのすぐれた浸透力を有する。

〔適応〕 下記の皮膚真菌性の治療

1) 白癬：足部白癬（汗疱状白癬、趾間白癬）、頭癬、斑状小水疱性白癬

2) カンジダ症：指間びらん症、間擦疹、皮膚カンジダ症、爪囲炎

3) 癬風

〔用法用量〕

1日2～3回患部に塗布する。

〔使用上の注意〕

皮膚にのみ使用し、眼利用として角膜、結膜には使用しないこと。

〔副作用〕 ときに局所の軽度刺激症状があらわれることがある。

過敏症状があらわれた場合は使用を中止する。

セバリンT液〔住友〕

〔組成〕 1g中 トルナフタート……………20mg
塩酸クロルヘキシジン（ヒピテン塩酸塩）……………2mg
サリチル酸メチル……………20mg

〔特長〕 トルナフタートは白癬菌に特異的に作用するが、アスペルギルス菌やカンジタ菌のような真菌類および細菌類にはほとんど効果がない。

〔適応〕 汗疱状白癬（みずむし）、頭癬（いんきんたむし）、斑状小胞性白癬（せにたむし）ならびにこれら疾患に伴う二次感染の予防

〔用法・用量〕

1日2回、清拭した患部に塗布する。

〔使用上の注意〕

外用のみに使用し、内服したり眼に入らないようにすること。

〔副作用〕 過敏症状があらわれた場合には使用を中止すること。

セバリンT軟膏〔住友〕

〔組成〕 1g中 トルナフタート……………20mg
塩酸クロルヘキシジン（ヒビデン塩酸塩）…2mg

〔特長〕 セバリンT液と同じ

〔適応〕 セバリンT液と同じ

〔用法・用量〕

1日2回適量を入念に患部に塗擦する

〔副作用〕 セバリンT液と同じ

〔保存〕 冷暗所に保管

痔疾治療剤

ルブリテックス軟膏・坐剤〔田辺〕

〔組成〕	2-(3,4-ジヒドロキソフェニル)テトラヒドロ-1,4-オキサジン塩酸塩	軟膏1g中	坐剤1個中
		1.5mg	2.5mg
	乳酸アルミニウム	5.0mg	10.0mg
	次没食子酸ビスマス	50.0mg	100.0mg

〔特長〕 患部の粘膜の腫張をやわらげ、出血がとまり、自覚症状が改善される。（特に止血作用が良好）

〔適応〕 内痔核、外痔核、肛門周囲炎、肛門掻痒症、肛門裂創、直腸脱、痔手術および痔焼灼術後の治療、直腸鏡使用の容易化

〔用法・用量〕

軟膏：通常1日1～数回適量を患部に塗擦する。

（参考） 外痔には適量をガーゼにのばして患部に貼布する。

内痔には添付の注入器を用いて直腸内に2～3gを注

入する。

排便後に使用すること。

坐剤：通常1日1～数回直腸内に1～2坐剤宛挿入する。

症状に応じて適宜加減する。

(参考) 主として内痔に使用する。被包を取り除いた後、直腸内に挿入する。排便後に使用すること。

(注入器の使用法)

まず注入器をチューブの口に十分ねじ込み、注入器のキャップを外した後、軟膏を少量押し出して指先で注入器の表面に塗り滑りをよくする。

注入器を肛門よりできるだけ深く直腸内に挿入し、チューブをしぼって約2～3gを注入し、注入後は軟膏を幾分押し出しながら注入器を徐々に抜きとる。

使用後は注入器をチューブにつけたまま、表面を脱脂綿等で清浄にした後、キャップをして保管する。

(使用上の注意)

- 血液中のビスマス濃度が上昇するおそれがあるので、長期連続投与を避け、やむを得ない場合には原則として1カ月に20日程度(1週間に5日以内)の投与にとどめること。
- 妊婦および小児に対する安全性は確立していないので、妊婦および妊娠している可能性のある婦人および小児には、投与量、投与期間等に注意して投与すること。

(副作用) 1) 精神神経系

ときに不安感があらわれることがある(軟膏)。

ビスマス塩類(次硝酸ビスマス、次没食子酸ビスマス)1日5～20gの連続経口投与(数カ月～数年間)により、間代性癡れん、昏迷、錯乱、運動障害等の精神神経系障害(初期症状：不安、不快感、記憶力減退、頭痛、無力感、注意力低下、振せん等)があらわれたとの報告がある。これらの報告によれば、症状は投与中止後数週間～数カ月で回復している。

2) 皮 膚

色素沈着があらわれることがある。

3) その他

ときに軽度の心悸亢進(軟膏)、便意(坐剤)があらわれることがある。

〔保存〕 なるべく涼しい場所に保管のこと。

便秘治療剤

レンカルボン坐剤〔ゼリア新薬〕

〔組成〕 1個中

炭酸水素ナトリウム	0.500g
リン酸水素ナトリウム	0.080g
レンチン	0.034g

〔特長〕 ・腸の運動を促進する炭酸ガスを発生せしめ、ぜん動を高める事によって、生理的に排便作用を発揮する。
・排便は通常10～30分の間起る。
・同一時刻に使用すると、排便反射を正常にし、薬剤なしに自然排便をみるに至る。
・下剤によって出た糞便と異り、排便が正常である。
・使用が簡単で且つ清潔である。
・病床者、妊婦にも使用出来る。

〔適応〕 急・慢性便秘、常習便秘、各種直腸便秘特に手術後や分娩後の便秘、病床者・妊婦・産褥婦の便秘、弛緩性便秘、高年者・幼小児の便秘、その他各種便秘

〔用法用量〕

1～2個をできるだけ肛門内深く挿入し、重症の場合には、1日2～3個を数日続けて挿入。なお使用のとき少量の水でぬらすと入れやすい。

〔保存〕 冷蔵所に保存する。

抗トリコモス剤

フラジール錠〔塩野義〕

〔組成〕 1錠中 メトロニダゾール250mgを含む

〔適応〕 トリコモナス膣炎

〔用法・用量〕

1日1回1錠を10～14日間膣内に挿入する。

〔使用上の注意〕

内服しないこと。

〔副作用〕 1) 過敏症 ときに掻痒感、膣壁充血等の局所刺激、局所の発赤等の過敏症状があらわれることがある。

- 2) 生殖器 治療実施中に *Candida albicans* が出現することがある。

点 眼 薬

新ロート目薬

〔組成とその特長〕

成 分	作 用
アラントイン	結膜の炎症を鎮め、眼のつかれを癒す。
メチル硫酸ネオスチグミン	調節器の疲労を回復し、つかれ目に著効。
硫酸亜鉛	消炎作用をもち、炎症によって起こる充血を除き、眼の痛みやかゆみをやわらげる。

〔適応症〕 疲れ目、結膜充血、目やに、なみだ目、ただれ目、紫外線その他の光線による眼炎、眼病予防（水泳のあと、ホコリや汗が眼に入った時など）。

〔用法・用量〕

1日5～6回、1回2～3滴ずつ点眼。

〔使用上の注意〕

- 眼の粘膜や角膜は身体の諸器管の中で最も敏感なので、眼の保健や眼病の治療に常用した場合、症状が改善されない時は、専門家の指示を受けて下さい。
- 点眼の際、容器の先が眼に触れると、眼やにや雑菌などのために薬液が濁ることがあるので、容器が直接眼に触れぬようにして下さい。
- 使用途中で万一浮遊物が生じた場合は、点眼を中止して下さい。保存の状態によっては、成分の結晶が容器の先に白くつくことがありますので、使用の前に清潔なガーゼで軽くふき取るか、薬液を一滴捨ててから点眼して下さい。
- 万一眼瞼の発赤やはれなどの症状が現われた場合には、点眼を中止して、現地医療従事者に相談して下さい。

〔保 存〕 冷所に保存、一般に目薬は、細菌汚染をうけやすいため浮遊物の有無を確かめてから使用して下さい。購入して半年以上経過したものについては使用しないで下さい。

パップ剤

トクホシ、パテックス

〔剤型〕 サリチル酸メチル、メントール、カンフルなどが主成分の貼布剤。

〔適応〕 肩こり、腰の痛み、神経痛、うちみ、捻挫、頭痛、筋肉の痛み、
筋肉の疲労。

〔用法・用量〕

汗など患部の湿り気を拭きとってから、静かにはがして患部に貼る。

サロメチール〔東京 田辺〕

〔組成〕 100g中

サリチル酸メチル..... 10.0g

レーメントール..... 6.0g

カンフル..... 7.0g

チモール..... 1.0g

キャプサイシン..... 0.025g

ニコチン酸ベンチールエステル..... 0.02g

サリチル酸グリコート..... 1.0g

〔適応〕 運動前後の筋肉疲労、打撲、わんざ、頭痛、歯痛、肩こり、腰痛、凍傷、
ロイマチス、神経痛、関節炎、毒虫咬傷皮膚掻痒症、咽喉痛、感冒
性関節炎

〔用法〕 1日数回患部に適宜塗擦する。なお湯上り後、又は温水で温め塗擦
後木綿その他の布きれで覆うと効果的。

防虫剤

新リベラン・クリーム〔岩城〕

〔組成とその特長〕

ジェチルトルアミド等の害虫忌避剤、忌避効果増強剤及びかみみ止
めを配合してありますので、蚊、ブヨ、ノミをよせつけず、虫にさ
されるのを防ぎます。

〔用法・用量〕少量を手のひらにとり、顔、首すじ、腕、足など露出した部分に
まんべんなく塗布。

〔使用上の注意〕

使用により、かぶれたり、刺激を感じた場合は、使用を中止する。
眼や口、傷口などには塗布しない。

症状別・薬品一覧表

症状別・薬品一覧表

(1) 皮膚の異常

症 状	薬 品 名	薬 効, 注 意 事 項
湿 疹 軽いかぶれ	レスタミンコーワ軟膏 オイラックス チョコラザーネ ベトネベート軟膏 ハイレンB	抗ヒスタミン剤 副腎皮質ホルモン剤, 長期間使用しない 中性薬用石けん
虫さされ	レスタミンコーワ軟膏 キンカン アンモニア水 マキロン オイラックス オロナインH軟膏 プロエントラ	ぶよ, 蚊, 南京虫などに刺された時外用 外用剤を使用してもかゆみが止まらない時, 毒蛾のように一べんに広範囲が侵された時, 要指示薬
アレルギー性炎症 日やけ 化 膿 じんましん 傷口の消毒	ソルコート軟膏 アクリノールガーゼ テラマイシン軟膏 プロエントラ ベトネベート軟膏 オギンドール 希ヨーチン マキロン	長期にわたって使用しない 要指示薬 傷口を清潔にした後, 使用 就寝時に1錠内服すればよい
手指の消毒 白 癬	ハイレンB マキロン エシベシドクリーム セパリンT液・軟膏	皮膚面の殺菌消毒に用いる

(2) かぜ

症 状	薬 品 名	薬効, 注意事項
頭痛, 発熱, 関節痛 咽喉炎, セキをど もなうかぜ症状	新ルルゴールドS	総合感冒薬 さむけがする, 熱がある, 頭 が痛い, 身体がだるい, ふし ぶしが痛い, せき・たんが出 る時
高熱がでたとき 痛みがはげしいとき	バッファリン アスピリン	アスピリン製剤 就寝前に服用するとよい。発 汗作用があるので汗をよくふ きとることが必要
二次感染をともなっ たウイルス性のかぜ 細菌性咽喉炎, 扁桃 炎	シノミン	持続性サルファ剤 本剤は12時間薬効が持続す る 要指示薬
高熱をともなうかぜ 急性肺炎, 扁桃炎, 気管支炎などの症状	アミノベンジール ペニシリン (アンピシリン)	抗生物質製剤, 本剤は4~6 時間毎に服用しなければなら ない。抗生物質は強烈に作用 するだけに, 連用すると耐性 菌を生じたり, 薬効が低下す るので注意を要する。 要指示薬
扁桃炎や咽喉炎をお こして, のど荒れ, 声がれの症状に	オラドール口中錠	トローチ製剤, 本剤は飲むも のではない 口腔内で溶かし, 口腔粘膜よ り吸収させ, 口内を殺菌する

(3) 胃腸の病気

症 状	薬 品 名	薬効、注意事項
消化不良, 下痢 腸内異常発酵 食べすぎ, 二日酔 い, 消化不良 胃のもたれ 軽い胃痛, げっぷ 胸やけ, 吐き気 強い痛み 胃のいれん 食欲がない, 便秘 胃が痛い	ミヤリサンA ワカ末糖衣錠 新タケダ胃腸薬 新三共胃腸薬 キャベジンロコーワ ゾスコパン コントロール バランス	急性胃炎, 腸内菌群のバラン スをとる酸度を調節 三層錠になっており, かま ずに服用 胃・十二指腸潰瘍, 急性腹症 胃腸の救急鎮痛薬 神経性胃炎, 胃ノイローゼ, 神経性食欲不振, 自律神経の 失調によっておこるので副交 感神経の興奮をしずめる鎮静 剤, 要指示薬
強い下痢 (一時的な)	正露丸	急性腸炎; 腸内の殺菌, 腐敗, 酸酵抑制, 腸管運動に影響し て下痢を止める
発熱をともなった 強い下痢, 細菌性 腸炎 (吐き気, 悪感, 下痢)	シノミン	食中毒, 化学療法剤, 要指示薬 食中毒, 抗生物質剤, 要指示薬
胃痛, 胃弱, 食あたり	正露丸	整腸剤
便 秘	レンカルボン坐剤 強力ソルベン	

(4) その他

症 状	薬 品 名	薬効、注意事項
ふしぶしの痛み 頭痛、生理痛、歯痛	ハイピリン パフッリン アスピリン セデス	アスピリン製剤 解熱、鎮痛、鎮静作用 比較的副作用が少ない
スポーツ後の痛みや はれ	トクホン パテックス サロンプラス サロメチール	筋肉痛、サリチル酸メチル
眠れない(不眠) 不安、意気消沈 おこりやすい いらいらする 自分の中に閉じこ もる	コントロール バランス	メントール、カンフルなどが 主成分の貼布剤 ビステリー、ノイローゼ、不 眠症、イライラや、神経質、 ストレスなどによる不安など に向精神薬として鎮静作用を 示す 要指示薬
からだがだるい 疲れやすい	総合ビタミン剤	
疲れ目、結膜充血 目やに、なみだ目 紫外線などのつか れ、ただれ目、も のもらい	新ロート目薬	毎日連用しても習慣性にはな らない 目の充血、角膜の炎症に用い る 眼瞼の保護に使用
寄生虫による病気	ビベミン コンバントリン	回虫、蟯虫の駆除 回虫、鉤虫、蟯虫の駆除、広 域駆虫剤で副作用が少ない。 1回服用で駆虫でき、食事に 関係なく服用
痔 疾	ルブリテックス軟膏、 坐剤	

索引

〔あ〕

アクリノールガーゼ	24, 37
アクロマイシン	4
アスピリン	2, 7, 8
あせも	23, 29
アノーバ赤痢	4
アレルギー性炎症	25, 37
アレルギー性諸疾患	13
アシピリン	4
アンモニア水	30, 37

〔い〕

胃炎	11, 15, 16
胃潰瘍	11
胃がもたれる	39
胃のいれん	11, 39
胃酸過多	15
痛みどめ	7, 8, 11
胃腸障害(副作用)	5, 6, 7, 8, 10, 18
胃腸薬	13, 14
胃痛	14, 15, 39
胃ノイローゼ	39
いらいら	10, 40
咽喉炎	19

〔う〕

うがい	23
うらみ	30, 36

〔え〕

衛生用材	巻頭
栄養剤	19
栄養失調	19
MP錠	5
炎症	19, 25

エンベシドクリーム 31

【お】

オイラックス 28

オキンドール 23

おとりやすい 10, 40

おでき 26

オラドール口中錠 19

穏和精神安定剤 9

悪心 4, 5, 15

嘔吐 4, 5, 14, 15, 16

【か】

外耳道炎 27

外傷痛 9

回虫 20, 21

潰瘍性消化器疾患 11

(胃潰瘍, 十二指腸潰瘍)

外用薬 23

化学療法剤 3

かき薬 31

かすれ声 19

かぜ 12, 13, 18, 38

かぜ薬 12

肩こり 30, 36

化膿 4, 24, 37

過敏症(副作用) 各薬の副作用

過敏体質(使用上の注意) 各薬の使用上の注意

かぶれ 23, 28, 37

かゆみ 13, 30, 37

関節炎 36

関節痛 8

感染症 21, 26

感冒 7

管理 3

〔き〕

傷口の消毒	23, 24
寄生虫	40
キャベジンUコーワ錠	15
急性腹症	11, 39
急、慢性胃・腸カタル	15, 16
蟯虫	20, 21
大たん菜	31
希ヨーチン	24
強力ソルベン錠	17
キンカン	30
緊張	10
筋肉痛	8, 36, 40

〔く〕

駆虫剤	20
クレオソート	16
クロラムフェニコール	4
クロロマイセチン	4

〔け〕

けいれん	11
血液障害(副作用)	6, 18
げっぷ	13, 39
解熱鎮痛薬	7
ケフレックス	5
下痢	15, 16, 18, 20, 39
健胃整腸剤	13

〔こ〕

口腔用剤	19
抗生物質	3
酵素製剤	17
鈎虫	21
口中錠	19

抗トリコモナス剤	21, 34
口内炎	19
口内殺菌	19
抗ヒスタミン剤	12, 13
抗マラリア剤	5
鼓腸	16
コレラ	4
コントロール	10
コンバントリン	21

〔さ〕

細菌性咽頭炎	18
細菌性食中毒	18
細菌性赤痢	4
細菌性腸炎	18, 39
剤型 1, 各薬の剤型	
挫傷	29
殺菌消毒	24, 25, 29
サルファ剤	18, 38
サロメチール	36

〔し〕

痔核	32
痔疾	29
痔疾治療剤	32
湿疹	13, 23, 25, 27, 28, 29, 30, 37
シノミン	18
習慣性	10
十二指腸潰瘍	11, 15
就眠誘導	10
消化不良	15, 16, 39
消痔	23, 26
常備薬	1
食あたり	16, 39
食中毒	16, 39

使用上の注意	各薬の使用上の注意	
神経性胃炎	39
神経性食欲不振	39
神経痛	7, 8, 36
じんましん	13, 27, 37
新三共胃腸薬	14, 39
新ルルゴールDS	11, 12, 38
新ロート目薬	35, 40
新リベランクリーム	36

〔す〕

頭痛	7, 8, 9, 38
ストレス	10, 40

〔せ〕

精神安定剤	9
生理痛	7, 8, 9
正露丸	16, 39
セデス	8, 40
セバリンT液	31, 37
セバリンT軟膏	32, 37
セファレキシム	5

〔そ〕

総合感冒薬	11
総合ビタミン剤	19, 40
創傷	25, 26
組成	各薬の組成
ソルシリン	4

〔た〕

ただれ	23, 29
体温計(換算表)	
タチオン	17
食べすぎ	14, 15, 39

打撲	36
たむし	29, 32
〔ち〕	
腔炎	34
中毒	17
腸チフス	4
腸内異常発酵	15, 18, 39
腸内菌叢	16
チョコレザーネ	29
〔つ〕	
疲れ目	35, 40
疲れやすい	40
〔て〕	
適応	各薬の適応
テトラサイクリン	4
テラマイニン軟膏	26, 37
点眼薬	35
〔と〕	
毒蛾	13
トクホン	36, 40
とびひ	25, 26
トリコモナス症	21
トリコモナス腔炎	34
トローチ	38
〔な〕	
なみだ目	35, 40
〔ね〕	
ねぶと	26
眠れない(不眠)	10, 40

ねんざ	36
〔の〕	
ノイローゼ	10
能書	2
のど荒れ	19, 38
飲みすぎ	15
〔は〕	
ハイビリン	7, 40
ハイレンE	23, 37
歯が痛い	7, 8, 9, 36, 40
はきけ	14
白解	28, 31, 32, 37
パップ剤	36
発熱	8
パテックス	36, 40
スプアリソ	7, 38, 40
パタノス	10, 40
〔ひ〕	
鼻炎	13
ビタミン剤	11, 19
ヒステリー	10
非ビリル系	12
皮膚炎	28, 29
皮膚乾燥症	29
皮膚掻痒症	27, 28, 36
皮膚の消毒	24
皮膚の洗浄	23
皮膚病	36
ビベニン	20, 40
日やけ	37
疲労	19

不安	10, 40
副作用	各薬の副作用
副腎皮質ホルモン剤	25, 27
腹痛	15, 16
ブスコパン	11, 39
二日酔	14, 39
不眠	10, 40
フラジール錠	34
フラジール内服錠	21
フルコート	25, 37
プロエントラ	13, 37

併用	2, 10
ベトネベート軟膏・クリーム	27, 37
扁桃炎(咽頭炎)	4, 38
便秘	16, 17, 34, 39
便秘治療剤	17, 34

防虫剤	36
保存	各薬の保存

マキロン	25, 37
マラリア	5

水あたり	4, 16
ミヤリサンA	16, 39

虫さされ	25, 28, 29, 30, 37
胸やけ	14, 15, 39

〔め〕	
目次	35
メントム	29
〔や〕	
薬物依存	2
薬用石けん	23
〔よ〕	
要指示薬	10, 18, 38, 39
腰痛	9, 36
用法用量	1, 各薬の用法用量
〔り〕	
リウマチ	7, 8
淋病	4
〔れ〕	
レンカルボン坐剤	34, 39
レスタミンローワ軟膏	28, 37
連用	2
〔わ〕	
ワカ末糖衣錠	15, 39

